

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531250

研究課題名(和文) 実践体験型 PBL 教育を導入した教員養成カリキュラムの開発に関する研究

研究課題名(英文) Development of Curriculum for Teacher Training utilizing Problem/Project Based Learning through Practical Experiences

研究代表者

松本 金矢 (MATSUMOTO, Kin'ya)

三重大学・教育学部・教授

研究者番号：10239098

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000 円、(間接経費) 1,170,000 円

研究成果の概要(和文)：教育実践現場やその隣接関連領域の現場で、教材開発研究とその実践を組み合わせ、教員養成のための新たなPBL教育カリキュラムの開発を模索した。開発したPBL教育モデルは、先行研究や実践活動で実績のある拠点校(5校区)を中心に、現場との協働において教育実践に活用された。さらに、海外の教育現場での学びを実現する海外実地研究型PBL教育を導入した。得られた成果は、学会発表(45件)・論文発表(29件)として公開され、関係研究者の評価を得た。

研究成果の概要(英文)：Problem/Project based learning models composed of educational research and practice for teacher training are developed in the fields of education and adjoining regions. The developed PBL models were put into practice in the cooperative 5 base schools and international studies of teaching in practice (Tianjin, Auckland, Hawaii, etc.). The results of this research were reported as 29 papers.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：カリキュラム構成・開発 PBL教育

1. 研究開始当初の背景

これまで本研究グループは、2006・2007年度、2008-2010年度にわたって、科学研究費基盤研究(B)の助成を受け、「教員養成型 PBL チュートリアル教育のためのシステムおよび評価法の開発」をテーマとした教員養成学部における PBL 教育の基本的なコンテンツの開発と、「デマンドサイドのニーズに即した教科領域を超えた教材開発と評価方法の研究」をテーマとして、教育隣接関連領域の実践現場での課題や児童・生徒のニーズに合わせた教材とその評価方法の開発に関する研究を進めてきた。ここで得られた成果は、国内外の学会を通して発信するとともに、日本教育大学協会の研究論文『PBL 教育を媒介とした「現場」と「大学」の往還関係の構築と評価システムの開発』や三重大学版『Problem-based Learning の手引き - 多様な PBL 授業の展開 - 』および『PBL 実践マニュアル - 事例シナリオを用いた PBL の実践 - 』、さらに評価方法としては『パフォーマンスアセスメント (PA) 実施マニュアル』などにとりまとめ、具体的な高等教育の方法を提供してきた。

このような研究成果の公表ならびに関係機関・研究者との交流を進める中で、新たな高等教育研究の可能性が明らかとなってきた。そのひとつは、学生が教員と協働して教材開発研究に取り組むことで、主体的に研究を推進する力を付けていることである。特に学会等において研究成果を発表し教育研究者と交流する際に、他大学で進められている同様の実践体験型の取り組みから、その方法や特徴・地域性に共通点と相違点を発見し、自分たちの活動の意義を再確認している。このような実践体験型 PBL 教育を現場での学びだけにとどめるのではなく、さらに深化させるための教材開発と評価方法の研究として進め、研究発表というプロジェクト型 PBL 教育に発展させるような、新たな高等教育方法の可能性を探る必要がある。

もうひとつは、海外の教育現場での学びを実現する海外実地研究型 PBL 教育の可能性である。三重大学教育学部は中国天津師範大学と合作弁学協定を結んでダブルディグリー制度を確立し、強力な連携体制が整っている。これを一つの拠点として、中国での海外実地研究を数年に渡って実施してきた。これにより、学生が海外の教育事情に触れ国際感覚を養うだけでなく、自分たちの受けてきた教育を相対化し、次世代の教育について考える機会を得ている。

2. 研究の目的

本研究では、これまで進めてきた教員養成型 PBL 教育に関する研究と教材およびその評価法の開発に関する研究とを統合し、教材開発研究とその実践を組み合わせた新たな PBL 教育を導入した教員養成カリキュラムを開発するとともに、その有効性を研究する

ことを目的としている。実践現場としてこれまでに構築してきた連携支援ネットワークを活用するだけでなく、新たな学校教育現場や海外の拠点を開拓して、実践体験型 PBL 教育を実施すると同時に、海外での教材に関する情報を収集・分析することで教材開発の力量を養成するカリキュラムを模索する。

さらには、海外実地研究に代表される、国を超えた教育研究を推進することにより、日本の教育方法や教材の現状との比較検討ができ、今後の教育研究に新たな視座を提供するとともに、これに参加する学生の変容を追うことで、海外における実践体験型 PBL 教育や異文化交流の教育的効果を明らかにすることが期待できる。

3. 研究の方法

これまでに開発された教材を基に、連携支援ネットワークを構成する拠点教育機関を中心に実践体験型 PBL 教育として教育実践を進め、そこでの学生の変容を明らかにすることから、実践体験型 PBL 教育の有効性を検討する。また、海外実地研究による PBL 教育研究として、これまで実績のある中国天津師範大学での実地研究を開始し、タイのチェンマイラジャバット大学とチェンマイ市内の小・中・高等学校などの教育事情や教材に関する情報を収集・分析する。また新たに、ニュージーランドオークランド大学教育学部との連携による理科教材の開発や、米国ハワイ州 PNO との音楽教育に関する連携など、新たな海外連携拠点を開拓する。最終的には、実践体験型 PBL 教育をカリキュラムに取り入れ、その有効性を評価・検証する。

4. 研究成果

2011 年度の研究成果としては、次の 4 つにまとめられる。まず、実践体験型 PBL 教育研究の推進である。具体的には、県南部遠隔地学校区における授業実践体験活動、保幼小中連携モデル校区における放課後学習支援および文化祭支援活動、小規模特認校区における授業観察活動等である。また、附属学校および大学隣接校区を中心に、小学生を対象とした調理実習を中核においた食教育カリキュラムの開発、中学校家庭科食物分野および保育分野における食教育の教材開発を教育学部学生、現場教員と連携して行った。2 つめは、海外実地研究の推進である。中国天津師範大学日本語教育コースとの連携による授業観察と、オークランド大学教育学部との連携での海外の教育制度や教育現場の視察を中心とした教育研修を実施し、海外実地研究の可能性とカリキュラム上での位置づけについて検討した。これら海外実地研究を導入することにより、自国の教育課題の相対化を通じて視野を拡大するばかりでなく、主体的学習力の向上や、教育に対するモチベーションを飛躍的に高めることが明らかとなった。3 つめは、教育学部内での PBL 教育授

業の改善に関する研究である。現場での実践的な学びだけでなく、大学内で開設される授業について、現職教員による具体的な教材開発方法の指導等を組み込んだ「総合的な学習の展望と実践」を新設し、その内容をまとめ、各教科の内容を起点とした総合学習（数学、音楽）またテーマを総合的に追究する学習の展開等を解説した冊子を作成した。最後に、教育方法およびその評価方法の開発に関する研究を推進した。初年次教育という観点から、PBL教材の開発を行いテキストの作成を行った。また、PBLにおける協同学習という観点から、そこでの行動を評価するためのRubricの作成を行った。

2012年度は、これまでの連携を推進してきた教育隣接領域の現場において、PBL教育研究の深化を図るとともに、新たな連携先の開拓を行った。具体的には、県南部遠隔地学校区における授業実践体験活動では、学校区の合併に伴い新たな幼稚園での実践を行うとともに、教育委員会と連携し小・中学校区を変更して活動を継続するよう交渉した。小中連携モデル校区における放課後学習支援および文化祭支援活動では、プロジェクト実践型のPBL教育モデルの意義を明らかにした。小規模特認校区における授業観察活動では、海外の教育方法との比較研究を行った。附属学校および大学隣接校区との連携では、食教育や家庭科調理技術を向上させる授業の開発を進めた。海外実地研究の推進では、中国天津師範大学日本語教育コースとの連携、オークランド大学教育学部との連携に加え、米国ハワイでの音楽療法教育に関する海外実地研究を、現地NPO法人との連携を図り実施した。海外実地研究を導入することの意義や成果を確認するために、現地NPO法人研究者を交えてシンポジウムを開催した。教育学部内でのPBL教育授業の改善に関する研究では、他の科学研究グループと連携したシナリオ型PBL教育モデルの開発や、CST事業および免許更新講習等の授業実践を通して、新たな教材開発も推進した。また、小学校教育にもものづくりに関する授業実践を導入するための教育研究を進めた。教育方法およびその評価方法の開発に関する研究では、協同学習における協同技能の評価Rubricを開発した。これらの成果は学会等において発表している。

2013年度は、これまでのPBL教育研究の成果を基に、大学院授業の改善を図った。特に大学院カリキュラム改革の根幹となる研究科領域共通科目『理数・生活系教育領域特論』等において、教科横断的な教材開発力の育成を目的としたPBL教育を開発し実践した。また、『理数・生活系教育領域特論演習』等では、現場のニーズに合わせた『教育実地研究基礎』などの現場実践型のPBL教育科目に大学院生がチューターとして参加する形態の授業など、本科研補助事業の研究分担者がそれぞれの開発したPBL

教育研究授業を提案・実践した。

また『教育実地研究』等により、県南部遠隔地における授業実践体験活動では、教育委員会と連携し新たな学校区の幼稚園・小学校・中学校において、学生による開発授業の実践を行い、それまでの9年間の成果を研究紀要としてまとめた。さらに、附属学校および大学隣接校区との連携では、食教育や家庭科調理技術を向上させる授業の改善を図った。附属幼稚園において開催されている卒園児保護者が運営する未就園児保育の会の内容の一部に、学生が企画運営する機会を設け、新たなPBL教育実践を始動させた。海外実地研究型PBL教育モデルでは、オークランド大学教育学部における学生の海外教育研修を3年間実施し、教育改革の進むニュージーランドの小中学校・高校・大学における課題解決型授業に触れた参加学生の教育意識の調査を行った。小中学校理科教育におけるICT機器を活用したPBL教材に関しては、CST事業や教員免許更新講習等において実践することで、現場教員から意見聴取を行い評価を受けた。PBL教育の評価については、幼児教育に関するPBL教育実践に取り組んだ学生の保育を捉える視点がどのような変容を遂げていくのかを検討した結果、3年次後期は学習者としての意識が強く、4年次後期には保育を担う実践者としての自覚が芽生えていることが明らかとなった。「特別支援教育入門」の現状と課題を明らかにすることを目的として質問紙調査を実施した結果、受講学生は概ね授業に満足し、授業後の興味関心も高まっており、「特別支援教育入門」の開講意義が明らかにされた。

これらの内容は、学会審査論文、大学研究紀要等にまとめ発表している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計30件)

1. 中西良文・松浦均・南学・松本金矢・根津知佳子、地域における教育実地研究の実践、大学教育研究-三重大学授業研究交流誌、査読無、**Vol.22**、2014、(掲載確定)
2. 松本金矢・根津知佳子・守山紗弥加、星形多面体を用いた造形題材の検討、三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、査読無、**Vol.34**、2014、pp.69-74
3. 平山大輔・尾上修一・後藤太郎、植物の蒸散の実験におけるデータロガーの活用、三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、査読無、**Vol.34**、2014、pp.19-23
4. 滝口圭子、幼児を対象とした里山ゾーンにおける自然活動：前期（4～7月）の取り組みから、金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要、査読無、**Vol.6**、2014、pp.35-48
5. 神谷麗奈・久世真理子・中村由紀子・平島円・磯部由香、小学校家庭科における調理技術の向上を目指した授業の開発、三重大

- 学教育学部研究紀要、査読無、**Vol.65**、2014、pp.245-251
- 6.松本金矢・中西康雅、手づくり楽器教材の音響特性に関する研究、日本産業技術教育学会誌、査読有、**Vol.55**、2013、pp.117-121
 - 7.松本金矢・川村涼・高森裕貴・守山紗弥加、ものとひととの関係を考える、大学教育研究—三重大学授業研究交流誌—、三重大学共通教育センター、査読無、**Vol.21**、2013、pp.29-33
 - 8.平山大輔・森川英美・後藤太一郎、光合成の授業における ICT の活用とその有効性、理科教育学研究、査読有、**Vol.54**、No.3、2013、pp.419-425
 - 9.松本金矢・古市裕太・中西康雅、技術教育のための総合的な材料加工教材の提案、三重大学教育実践総合センター紀要、査読無、**Vol.33**、2013、45-50
 - 10.廣岡雅子・中西良文・松浦均・古結亜希・梅本貴豊・市川大貴小学生のコミュニケーション能力に対する Performance Assessment - 統合型解決に関するプログラム (Task) と評価基準 (Rubric) の検討 - 、三重大学教育実践総合センター紀要、査読無、**Vol.33**、2013、pp.79-85
 - 11.磯部由香・中村由紀子・平島円・吉本敏子、小学生を対象とした調理技術の向上に着目した食教育の実践、三重大学教育実践総合センター紀要、査読無、**Vol.33**、2013、pp.39-44
 - 12.安場規子・磯部由香・吉本敏子、家庭と地域の人々とのかかわりを大切にした家庭科教育における食教育の実践、三重大学教育実践総合センター紀要、査読無、**Vol.33**、2013、pp.87-92
 - 13.後藤太一郎・荒尾浩子、オークランド大学教育学部との連携による教育研修の実施、三重大学教育実践総合センター紀要、査読無、**Vol.33**、2013、pp.27-31
 - 14.西村まりな・中西良文、ルーブリックを用いた協同技能の評価に関する検討、三重大学教育学部研究紀要、査読無、**Vol.64**、2013、pp.363-371
 - 15.森脇健夫・山田康彦・根津知佳子・中西康雅・赤木和重・守山紗弥加、教員養成型 PBL 教育の研究 (その 1) 、三重大学教育学部研究紀要、査読無、**Vol.64**、2013、pp.325-335
 - 16.滝口圭子、未就園児保育の運営に携わる学生の 3-4 年次の意識の推移、日本教育大学協会研究年報、査読有、**Vol.31**、2013、pp.3-14
 - 17.尾島恭子・綿引伴子・松田洋介・滝口圭子・橋本正恵・中村正寛・中田泉・西多由貴江、大学・附属学校園における連携活動の検討：家庭科を中心とした実践事例から、金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要、査読無、**Vol.5**、2013、pp.45-53
 - 18.森脇健夫、「存在論的つながり」と「認識論的つながり」、学習研究、査読有、**Vol.456**、2012、pp.24-29
 - 19.中西良文、Problem-based Learning (PBL) が自己調整学習方略使用および学習動機づけに及ぼす効果、協同と教育、査読有、**Vol.8**、2012、pp.10-19
 - 20.富田昌平・滝口圭子・谷口美幸・小坂聡子、幼児による想像の現実性判断に見られる多視点態度性、心理科学、査読有、**Vol.33**、2012、pp.1-15
 - 21.滝口圭子・吉村淳美、公立幼稚園における未就園児支援に参加する保護者の意識の推移：5、6 月期と 11 月期の比較から、広島大学教育学部幼年教育研究年報、査読無、**Vol.34**、2012、pp.27-34
 - 22.滝口圭子・迫田里紗、幼稚園年中児クラスにおける歌唱指導：導入部に見受けられる保育者と子どもとのやり取りから、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属教育実践支援センター紀要、教育実践研究、査読無、**Vol.38**、2012、pp.45-57
 - 23.梅本貴豊・中西良文、中学生における方略保有感を促進する授業実践の効果、東海心理学研究、査読無、**Vol.6**、2012、pp.24-35
 - 24.廣岡雅子・古結亜希・中西良文・松浦均・梅本高豊、小学生のコミュニケーション力を高める実践的研究、東海心理学研究、査読有、**Vol.6**、2012、pp.36-43
 - 25.森脇健夫・康鳳麗・坂本勝信、熟練日本語教師の力量内容とその形成、三重大学教育学部研究紀要、査読無、**Vol.63**、2012、pp.267-273
 - 26.梅本貴豊・中西良文、方略保有感、方略の認識と主観的ウェルビーイングの関連、三重大学教育学部研究紀要、査読無、**Vol.63**、2012、pp.353-358
 - 27.磯部由香・櫻井誠・平島円・吉本敏子、食品関連企業の提供する食教育資源に対する教員の意識、三重大学教育学部研究紀要、査読無、**Vol.63**、2012、pp.111-117
 - 28.前田紀夫・磯部由香・平島円・吉本敏子、三重県の中学校「技術・家庭」における調理実習の現状、三重大学教育学部研究紀要、査読無、**Vol.63**、2012、pp.167-171
 - 29.磯部由香・早川巴貴・平島円、小学生を対象とした料理教室を通じた食教育、食育学会誌、査読有、**Vol.6**、2012、pp.1-7
 - 30.森脇健夫・康鳳麗・坂本勝信、日本語教師の力量形成研究、三重大学国際交流センター紀要、査読有、**Vol.6**、2011、pp.53-63 [学会発表](計45件)
- 1.松本金矢、技術教育における感性と身体、第9回日本感性工学会春季大会(札幌)、2014年3月22日
 - 2.中西良文・下村智子・守山紗弥加・益川優子・大道一弘・中島誠、プロジェクト活動を中心とした初年次教育科目受講による社会的動機づけの変化、第20回大学教育研究フォーラム、2014年3月18日、京都大学
 - 3.松本金矢、技術教育における教材開発、学び教育フォーラム平成25年度第6回例会、2014年3月1日、大阪産業大学

- 4.松本金矢・中西康雅、遺伝的アルゴリズムを用いた材料と加工に関する教材の提案、第31回日本産業技術教育学会東海支部大会、2013年12月8日、静岡大学
- 5.甲谷俊紘・松本金矢・中西康雅、遺伝的アルゴリズムによる倍音を考慮した打楽器の最適設計、第31回日本産業技術教育学会東海支部大会、2013年12月8日、静岡大学
- 6.西村まりな・中西良文、読解の理解深化を目指すLTD話し合い学習法の実践、日本協同教育学会第10回大会、2013年12月1日、札幌大学
- 7.尾上修一・後藤太一郎、データロガーの活用、日本理科教育学会東海支部大会、2013年11月10日、愛知教育大学
- 8.滝口圭子、教員養成大学・学部における特別支援教育関連授業の開講実態2、日本LD学会第22回大会、2013年10月12日、パシフィコ横浜
- 9.滝口圭子・水内豊和・高緑千苗・阿部敬信・山本理絵、教員養成系大学における特別支援教育に関連する授業のあり方を考える、日本LD学会第22回大会、2013年10月12日、パシフィコ横浜
- 10.松本金矢、三重大学におけるPBL教育、PBL教育実践研究会、2013年10月4日、北海道工業大学
- 11.神谷麗奈・中村由紀子・平島円・磯部由香、小学校家庭科における調理技術の向上を目指した授業の検討、日本家政学会中部支部大会、2013年9月17日、名古屋女子大学
- 12.平島円・堀光代・磯部由香・長野宏子、大学および専門学校生の料理の習得に及ぼす調理実習の影響、日本調理科学会平成25年度大会、2013年8月25日、奈良女子大学
- 13.中西良文、PBL(Problem/Project-based Learning)によるメタ認知方略の促進(自主シンポジウム「自己調整学習とメタ認知-それぞれの研究成果を互いにどのように生かしていくべきか」企画者 瀬尾美紀子・伊藤崇達・塚野州一)、日本教育心理学会第55回総会2013年8月19日、法政大学
- 14.滝口圭子・田爪宏二・松本博雄・伊藤崇、改めて保幼小接続を考える、日本教育心理学会第55回総会、2013年8月19日、法政大学
- 15.滝口圭子、教員養成大学・学部における特別支援教育関連授業の開講実態3:より望ましい授業担当形態及び授業の困難さに関する分析(自主企画シンポジウム)、日本教育心理学会第55回総会、2013年8月17日、法政大学
- 16.尾上修一・後藤太一郎、データロガーの活用、日本理科教育学会全国大会、2013年8月10日、北海道大学
- 17.服部早央里・淀大我・後藤太一郎、シースルー魚種の繁殖と教材化について、日本理科教育学会全国大会、2013年8月10日、北海道大学
- 18.岡崎こころ・大角侑樹・齋藤由香・中道瑛美・後藤太一郎、新型アリ飼育容器「不思議の国のアリ巢」の開発、日本理科教育学会全国大会、2013年8月10日、北海道大学
- 19.平島円・堀光代・磯部由香・長野宏子、大学および専門学校在学中の学生の料理の習得状況、日本調理科学会東海・北陸支部第9回研究発表会2013年7月7日、三重大学
- 20.滝口圭子、ウサギとの出会いが幼児に何をもたらすか、日本認知心理学会第11回大会、2013年6月29日、つくば国際会議場
- 21.磯部由香・斎藤真菜・平島円、小学生を対象とした味覚授業の実践、日本家政学会第65回大会、2013年5月18日、昭和女子大学
- 22.滝口圭子、教員養成学部4年間を通じた学生の子ども観の推移、日本発達心理学会第24回大会、2013年3月16日、明治学院大学
- 23.松本金矢・根津知佳子・森脇健夫、教員養成型PBL教育の課題と展望、第19回大学教育研究フォーラム、2013年3月15日、京都大学
- 24.中島誠・中山留美子・長濱文与・中西良文・南学、学士力に対応した全学的初年次教育の展開(9)、第16回大学教育研究フォーラム、2013年3月15日、京都大学
- 25.中山留美子・中島誠・長濱文与・中西良文・南学、学士力に対応した全学的初年次教育の展開(10)、第16回大学教育研究フォーラム、2013年3月15日、京都大学
- 26.青木智美・中西康雅・松本金矢、防災・減災に関する建物の構造学習のための地震応答シミュレーション教材の開発、第30回日本産業技術教育学会東海支部大会、2012年11月25日、三重大学
- 27.中島誠・中西良文・南学、ループリックによる大学生の就学達成度評価、日本教育心理学会第54回総会、2012年11月24日、琉球大学
- 28.中西良文・中島誠・中山留美子・長濱文与、協同学習場面における社会的動機づけに関する研究(1)、日本教育心理学会第54回総会、2012年11月23日、琉球大学
- 29.森脇健夫、中堅教師の飛躍台としての校内研究、日本教育方法学会第48回大会、2012年10月7日、福井大学
- 30.吉田和代・中村由紀子・平島円・磯部由香、小学校低学年を対象とした味覚授業の実践、日本家政学会中部支部大会、2012年9月8日、岐阜大学
- 31.Nakanishi, Y., Umemoto, T., & Tanaka, K., Changes in social motivation and learning strategies in PBL, COGSCI, Sapporo, Japan, 2012/8/3
- 32.中西良文・南学・中島誠、大学生における動機づけの発達的变化(1)、東海心理学会第61回大会、2012年5月26日、日本福祉大学
- 33.松本金矢・根津知佳子・森脇健夫、教員養成型PBL教育の課題と展望VI、第18回大

- 学教育研究フォーラム、2012年3月16日、京都大学
34. 中島誠・長濱文与・中山留美子・中西良文、初年次学生における大学生活への興味、第18回大学教育研究フォーラム、2012年3月15日、京都大学
 35. 南学・中西良文・中島誠、大学生における社会的クリティカルシンキングの発達、第18回大学教育研究フォーラム、2012年3月15日、京都大学
 36. 松本金矢、技術教育における感性と身体磨くことからみえるもの、第7回日本感性工学会春季大会、2012年3月3日、サンポートホール高松
 37. 篠塚和賢・松浦均・南学・中西良文・松本金矢・根津知佳子・前原裕樹、学生による「コミュニケーション」をねらいとする授業の構築と実践、平成23年度日本大学協会研究集会、2011年10月15日、香川大学
 38. 中西良文・西村まりな、協同技能の評価のためのルーブリックに関する検討、日本協同教育学会第8回大会、2011年10月1日、千葉大学
 39. 櫻井誠・磯部由香、食品関連企業の提供する食教育資源に対する教員の意識、日本家政学会中部支部大会、2011年9月17日、三重大学
 40. 磯部由香・上村千奈津・平島円、大学生を対象とした食生活改善プログラムの実践、日本調理科学会平成23年度大会、2011年8月30日、高崎医療大学
 41. 松本金矢・中西康雅、手づくり楽器教材の音響特性に関する研究、日本産業技術教育学会第54回全国大会、2011年8月28日、宇都宮大学
 42. Umemoto, T., & Nakanishi, Y., Effects of practical lessons on promoting agency beliefs for strategy in middle school students., the 15'th European Conference on Developmental Psychology, 2011/8/25, Bergen, Norway
 43. 康鳳麗・森脇健夫・坂本勝信、熟練日本語教師の力量内容とその形成、世界日本語教育研究大会、2011年8月19日、中国天津
 44. 後藤太一郎・中泉久子・淀大我、透明鱗をもった魚種の教材化、日本理科教育学会、2011年8月7日、山梨大学
 45. 前田紀夫・磯部由香・平島円・吉本敏子、中学校における調理実習の課題解決に向けた授業の実践、日本家庭科教育学会、2011年6月26日、長崎大学
〔図書〕(計12件)
 1. 中西良文他8名、ムイスリ出版、三重大学「4つの力」スタートアップセミナー2014年度版、2014、60(1-60)
 2. 清水益治・森敏昭編著・滝口圭子他16名著、北大路書房、0歳~12歳児の発達と学び：保幼小の連携と接続に向けて、2013、206(31-39)
 3. 森脇健夫、三重県教育委員会、授業改善支

- 援プラン、2013、68(54-65)
4. 速水敏彦監修・中西良文他25名著、名古屋大学出版会、教育と学びの心理学、2013、318(81-96)
 5. 中西良文他9名、ムイスリ出版、三重大学「4つの力」スタートアップセミナー2014年度版、2013、76(1-76)
 6. 山崎雄介・松下佳代・松下良平・杉原真晃・木原誠一郎・久保研二・松崎正治・森脇健夫・藤原顕・萩原伸・村井淳志・吉永紀子・銚山泰弘・石垣雅也、勤草書房、教師になること、教師であり続けること、2012、292(137-158)
 7. 中西良文他9名、ムイスリ出版、三重大学「4つの力」スタートアップセミナー2012年度版、2012、60(1-60)
 8. 小田隆治、杉原真晃、根津知佳子、他16名、ナカニシヤ出版、学生主体型授業の冒険2、2012、289(222-236)
 9. 速水敏彦監修・中西良文他25名著、ナカニシヤ出版、コンピテンス、2012、267(20-29)
 10. 田中耕治・森脇健夫、徳岡慶一、学文社、授業づくりと学びの創造、2011、165(37-87)
 11. R. アラン著・後藤太一郎監訳、オーム社、ワグックで学ぶ生物学の基礎(改訂版)、2011、295(1-295)
 12. 長濱文与・中島誠・中山留美子・中西良文編、ムイスリ出版、三重大学「4つの力」スタートアップセミナー2011年度版、2011、57(1-57)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本金矢 (MATSUMOTO, Kin'ya)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：10239098

(2) 研究分担者

森脇健夫 (MORIWAKI, Takeo)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：20174469

根津知佳子 (NEZU, Chikako)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：40335112

後藤太一郎 (GOTO, Taichirou)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：90183813

滝口圭子 (Takiguchi, Keiko)
金沢大学・学校教育系・准教授
研究者番号：60368793

中西良文 (NAKANISHI, Yoshifumi)
三重大学・教育学部・准教授
研究者番号：70351228

磯部由香 (ISOBE, Yuka)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：80218544